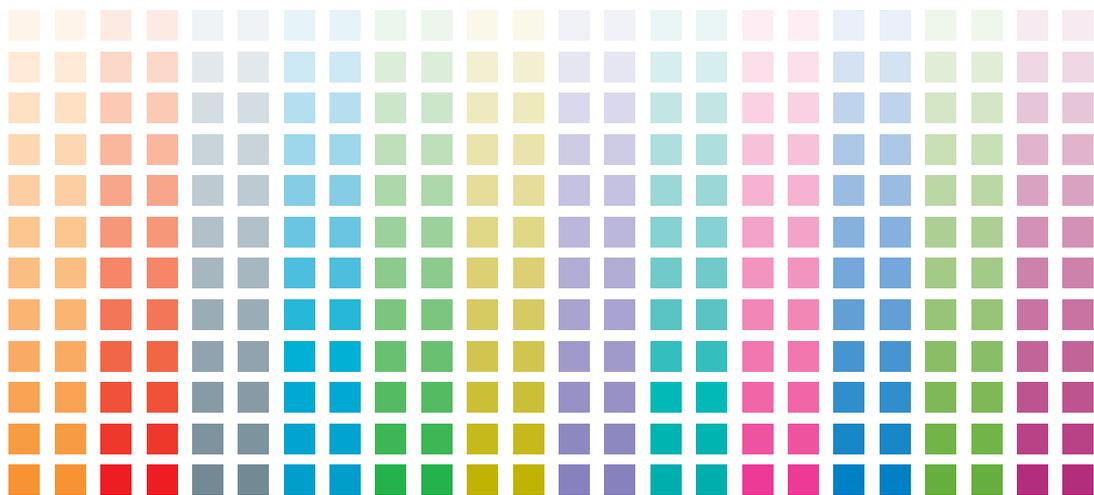


東京地下鉄日和



pdf_edition





築地市場駅 場内市場「センリ軒」

いつもそこにいる
あの人に会うために…

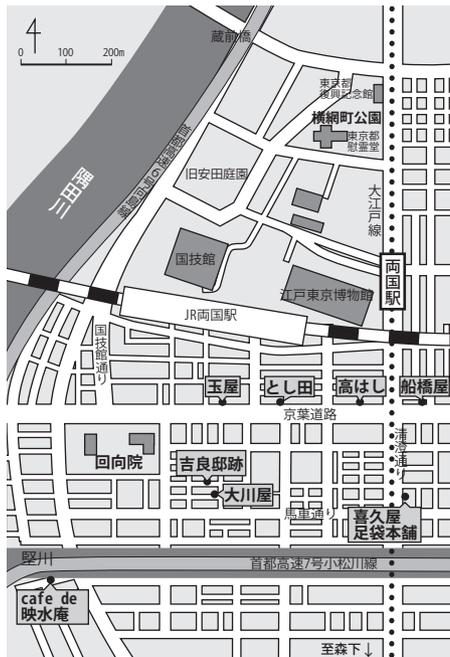
都営 大江戸線

とし田のおばちゃん



多くの仲間が未だこの地に暮らしているようだ。同窓会では空襲で亡くなった仲間のお参りをしに、必ず東京都慰霊堂へ行くと言う。懐かしそうに両国の歴史や魅力を語るおじさんの表情からこの土地への愛着が感じられた。
おじさんと別れ、話をもとに両国界隈を歩いてみる。
まずは「吉良邸跡」を目指す。かつては広大な敷地だったというが、今はもうその面影はない。目の前には和菓子

屋「大川屋」で「吉良まんじゅう」「隅田川もなか」を味わう。次に馬車通りを歩く。なぜか衣料品関係の店が多いことに疑問を抱きつつ、清澄通り沿いにある「喜久屋足袋本舗」へ。店の一角に力士の足袋や足型が展示されている。仕事のおばちゃんに昔この辺りが繊維業、編物業が盛んだったことを聞き疑問解消!! しばらく行くと今日の100円ショップともいえる「東京百貨船橋屋」がある。なんと驚きの全品95円! これぞ下町価格。「両国高はし」では相撲グッズをチェック。ついにおじさんの同級生がいるという和菓子屋「とし田」を発見!! 「力士もなか」、「フルーツ花氷」どれもおいしそうで目移りしてしまう。蕎麦屋の「玉屋」を過ぎ、大相撲発祥の地である回向院へ。回向院は1857(明暦3)年の明暦の大火による犠牲者を弔うために開かれた。動物供養の卒塔婆も目立つ。



国技館通りには力士像が点在。場所中に限らず町中で力士の姿を見かける。JR両国駅を過ぎると国技館、江戸東京博物館がある。近世の江戸から現代の東京の歴史が学べる博物館は一日では回りきれない程広く、興味深いものばかりでついつい長居してしまふ。最後に関東大震災、東京大空襲の犠牲者を供養する慰霊堂がある横網町公園へ向かう。中には当時の状況がリアルに伝わってくる復興記念館もある。

両国は過去を忘れることなく今に伝えている。歴史あるものを保存する人々の姿に決して派手さはないが、心に深く刻み込まれる。私たちが忘れかけている人間の優しさ、温かさが心地良く、時間の流れも忘れてしまうくらいいんびりとした気分がさせてくれる。あなたにもぜひ感じてもらいたい、江戸人情溢れる両国の温かさや深みを。

Oh!! 江戸両国



森下で降り地図を片手に両国まで歩く。堅川に架かる一の橋、その手前にある「cafe de 映水庵」で日替わりランチを注文。店内にある両国のガイドブックを眺める私。しばらくして隣の席に一人のおじさんがやってきた。するとなぜか、おじさんにメニューにはないお茶が運ばれてきた。不思議に思った私は、いつのまにかそのおじさんに話しかけていた。
おじさんは生まれも育ちも両国。毎日のようにこの店に来る常連さんだった。気が付くと私はおじさんの地元ならではの話に夢中になっていた。
両国はJR総武線の始発駅であったことから東の玄関と言われていたらしい。今では川に高速道路も架かり、船着場も減ってしまったという。昔はこの川に飛び込み泳いだというが、現在の川のみからはとても想像がたい。
かつて共に時を過ごした同級生、和菓子屋「とし田」、蕎麦屋「玉屋」の主人を始め、



1. とし田・大川屋の和菓子
2. 国技館通りの力士像
3. 江戸東京博物館
4. 堅川
5. cafe de 映水庵のカレー
6. 町内の看板
7. 回向院
8. 両国高はし
9. 東京都慰霊堂
10. 東京都慰霊堂

大江戸線全駅ガイド

自転車に子どもを乗せた若奥様が目に留まる団地群の光が丘からスタート。練馬大根ゆかりの寺愛染院のある練馬春日町。豊島園にある十一ヶ寺は家の様なお寺がずらりと並び奇妙な風景。区の中心地練馬に来るとやや賑わいを感じるが、次の新江古田は静かな街。落合南長崎からは中野の異空間、哲学堂公園へ行こう。この先中井、東中野、中野坂上、西新宿五丁目までは山手通りをひた走る。この辺りの地下は深い。

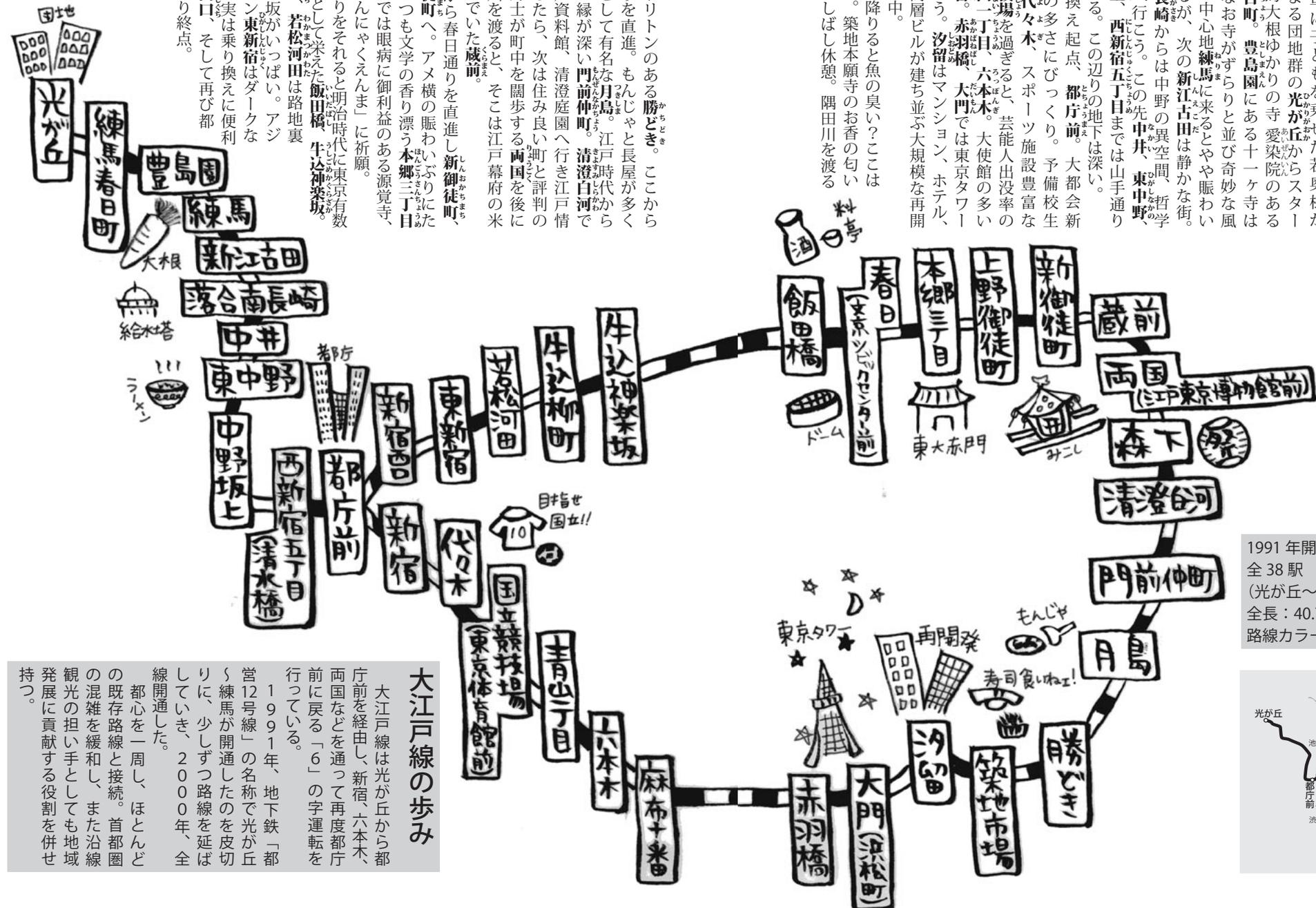
乗り換え起点 都庁前。大都会新宿の人の多さにびっくり。予備校生の多い代々木、スポーツ施設豊富な国立競技場を過ぎると、芸能人出率の高い青山一丁目、六本木。大使館の多い麻布十番。赤羽橋。大門では東京タワーを眺めよう。汐留はマンション、ホテル、企業の高層ビルが建ち並ぶ大規模な再開発が進行中。

電車を降りると魚の臭い？ここは築地市場。築地本願寺のお香の匂いに誘われしばし休憩。隅田川を渡る

と晴海トリトンのある勝どき。ここから清澄通りを直進。もんじやと長屋が多く残る町として有名な月島。江戸時代から寺社との縁が深い門前仲町。清澄白河で深川江戸資料館、清澄庭園へ行き江戸情緒を感じたら、次は住み良い町と評判の森下。力士が町中を闊歩する両国を後にし隅田川を渡ると、そこは江戸幕府の米倉が並んでいた蔵前。

ここから春日通りを直進し新御徒町、上野御徒町へ。アメ横の賑わいふりにたじろぎつつも文学の香り漂う本郷三丁目へ。春日では眼病に御利益のある源覚寺、通称「こんにやくえんま」に祈願。

春日通りをそれると明治時代に東京有数の繁華街として栄えた飯田橋。牛込柳町、若松河田は路地裏に小さな坂がいっぱい。アジアンタウン東新宿はタークナ秀囲気。実は乗り換えに便利な新宿西口、そして再び都庁前に戻り終点。



1991年開通
全38駅
(光が丘～大門經由都庁前)
全長：40.7km
路線カラー：マゼンタ

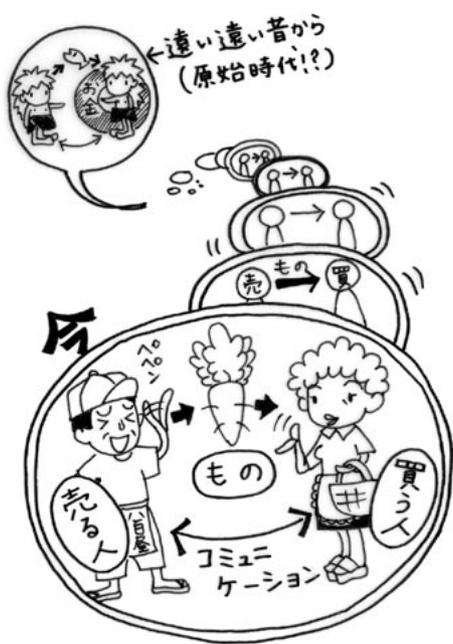


大江戸線の歩み

大江戸線は光が丘から都庁前を経由し、新宿、六本木、両国などを通って再度都庁前に戻る「6」の字運転を行っていた。

1991年、地下鉄「都営12号線」の名称で光が丘～練馬が開通したのを皮切りに、少しずつ路線を延ばしていき、2000年、全線開通した。

都心を一周し、ほとんどの既存路線と接続。首都圏の混雑を緩和し、また沿線観光の担い手としても地域発展に貢献する役割を併せ持つ。



る人「買う人」が「もの」を介してコミュニケーションする。スーパーでも繰り広げられるこの単純行為が、商店街においては、よりナマの形で表現される。そうして私たちは心温められ、今ここにいる実感を取り戻した。

「商店街に必要なのは、数ある商店を仕切れるバカ者、買物をして商店街の輪を広げてくれるヨソ者、それらを継承するワカ者なんだよ」と麻布十番商店街長、須永さんは

言う。麻布十番商店街は持ち前の結束力を活かして、商店街にとつて悪いものは断固拒否し、いいものは寛容に受け入れる。近隣の各国大使館の協力を得た国際パザールを目玉とする納涼祭りは連日道が人で埋め尽くされるほどの盛況ぶり。今では全国区の商店街として、各地から同業者が視察に訪れることもあるという。

もの・売る人・買う人、この3ピースがそれぞれ質の高い状態でうまく合わさった時、

沿線の主な商店街一覧

- 麻布十番商店街／麻布十番駅4番出口すぐ
・ <http://azabujuban.or.jp>
- アメ横商店街／上野御徒町駅A6出口から上野駅方面へ
・ <http://ameyoko.net>
- 神楽坂商店街／牛込神楽坂駅A3出口右へ約150m
・ <http://syoutengai-web.net/kagurazaka>
- 佐竹商店街／新御徒町駅A1出口すぐ
・ <http://www.tctv.ne.jp/satake>
- 月島西仲町通り商店街／月島駅5番出口
・ <http://www.tsukinishi.com>
- 築地場外商店街／築地市場駅A1出口左へ約150m
・ <http://www.tsukiji.or.jp>
- 鳥越おかず横丁／新御徒町駅より清洲橋を南へ約300m
- 高橋のらくロード商店街／森下駅A7出口右へ約200m
・ <http://www.5a.biglobe.ne.jp/norakuro/sub2.html>
- 東中野銀座商店街／東中野駅A2出口すぐ
- 深川仲町通り商店街／門前仲町駅5番出口すぐ



充実した麻布十番商店街マップ



麻布十番「たぬき煎餅」はいつも温かい

魅力的な商店街が誕生する。その形態は昔も今も変わらないう。商店街、それを魅せる人、惹かれる人。この関係がずっと続けばいい。



日本で2番目に古い佐竹商店街

店街だ。その歴史は明治までさかのぼるといふから、商店街の魅力の原点があるに違いない。そう思つて私たちはアーケードに足を踏み入れた。確かに、古くからありそうな味のある商店が軒を連ね、店を開けている。しかし、人はまばらで何か物足りない。果たして私たちはここにいていいのか、そんな迷いさえ生まれ始める。まるでどこか昔に取り残されたかのごとく。ここから蔵前方面へと長屋の面影を残す住宅街を歩いたところに、鳥越おかず横丁という夕暮れ時の匂いがしそうな商店街があるが、これも忘れられてしまったように人通りは少ない。自転車か揃つて向かう先を追いかけると、そこは



鯉節屋のおばちゃん、ありがたう

モノが一度に揃うスーパーであつた。物足りない何かを求めて、私たちは、朝の築地場内、場外市場へと出向いた。ここは主に同業者を対象とする、商店街のための商店街「キングダブ商店街」とでも呼びたくなる場所だ。匂いにつられて鯉節屋で立ち止まると「食べてみていいわよ」とおばちゃん。「ほんとと一緒に醤油をちよつとかけて食べたらおいしいわよ」と会話が弾む。髪



早朝破りて落とされたマクログ

を染める私たちの健康にまで心配をしてくれるおばちゃん。とうとう思わぬ買い物をしてしまった。また来よう。私たちはそう心に誓つて鯉節屋を後にした。彼らはカメラを背負つた一般客だろが同業者だろががかわらず訴えかけてくる。ここで飛び交う声、山と並べられるもの、それら全てはパツク詰めなどされていない、ナマモノだ。商店街の魅力はまさにそこにある。「売

商店街 3ピースの法則

見つけると、つい惹かれて立ち寄ってしまう商店街。

なんだコレクシヨン



大江戸線は、経費削減に伴い、多数の会社に建設を委託したため、駅ごとに個性があり、乗っているだけでも楽しい。が、我々は駅を出てからも、街歩きにはうれしい不思議ちゃんたちを発見した。さあここはどこ？一問20点だよ。答えはこのページの下!!



- ①住宅街に突如として現れた謎の館
- ②え？しゃちほこじゃないの？
- ③一度見たら忘れない…
- ④海賊日本上陸！
- ⑤お寺にビルが生えてきた！

コラム 石原都知事の「迷案」と「名案」

右の写真を見てほしい。新しい床屋がオープンしたのだろうか。いや、これは我々が大江戸線の取材で見つけたものである。大江戸線を利用したことがある人なら見たことがあるかもしれない。正確に言うところには地下鉄の入口にある。こんなものがついてるのは何を隠そう大江戸線だけだ。この疑問を晴らすため、我々はさっそく都交通局を訪ねた。すると、なんとこれは地下鉄の目印だと言うのではないか。その名も「動くシンボル」。実はこれ、あの石原都知事が地下鉄にもっとわかりやすい出入口のサインをと考案し、公募で選ばれたものだとか。いや～わかりにくい！逆に疑問へと発展してしまった。もっと大きくてわかり易いものはないのかと再び訊ねると、これ以上大きくすると、わかり易いどころか交



通の妨げとなって道路交通法に引っかかってしまうらしい。

ところで「大江戸線」という名前、当初は公募から選ばれていた「東京環状線」、愛称「ゆめもぐら」だったが、実際は「6」の字運転であるため、名称としてそぐわないと都知事が猛反対！結局、彼の気に入っていた「大江戸線」（公募では20位）を採用するに至ったらしい。現在大江戸線は、利用者はまだあまり多くないものの、各駅に設置されたパブリックアートや、かつて「江戸」と呼ばれていた地域をほぼ網羅する観光列車的要素を取り入れるなど、他路線とは一味違った新しい地下鉄としてその力を発揮している。石原都知事の迷案と名案。次はどんな案を提供してくれるのだろうか。



答え ①野方給水所配水塔／落合南長崎駅 ②横網町公園内東京都慰霊堂／両国駅 ③麻布十番商店街のモニュメント「父と息子」／麻布十番駅 ④両国公園のブランコ／両国駅 ⑤善福寺と元麻布ヒルズ／麻布十番駅

編著：法政大学社会学部加太ゼミ／監修：山下大厚

Copyright (C) 2002-2003, Kabuto Seminar. All Rights Reserved